

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990100517		
法人名	医療法人 みずほ会		
事業所名	グループホーム あさくら		
所在地	高知県高知市朝倉丙533-1		
自己評価作成日	平成25年7月9日	評価結果 市町村受理日	平成25年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・開設して間もなく1年が経とうとしているグループホームです。利用者さん・職員とも元気で笑い声が絶えない新鮮な事業所です。
・グループホームらしいグループホームに向けて職員一同がんばっています。認知症という同じ病気を持った利用者さんが助け合いながら共同生活を送る環境とは？を職員は日々考え支援・関わりを持たせて頂いています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajokensaku.jp/39/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JgyosyoCd=3990100517-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成25年8月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

高知西バイパスから少し北に入った閑静な場所に位置する事業所である。同じ建物に小規模多機能型居宅介護事業所が、また向かいには今年7月開設の3階建てのサービス付き高齢者住宅、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、医療クリニック等があり、今後の行事や防災などに連携が取りやすい環境になっている。昨年8月に開設したばかりの新しい清潔感のある事業所であり、利用者同士の繋がりを大切にするとともに、家族の思いにも応えられる支援を目指している。開設以来、利用者その人らしさを常に考え試行を重ねながら、利用者のADLの低下防止に向け努力している。今後とも、利用者を第一に考える管理者のもと、職員とのチームワークのよさで個々の暮らしぶりを大切にしたい理念を實踐し、地域に根差した福祉拠点としての発展が期待される事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名：やまもも

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設前に職員全員で基本理念を立案しました。職員会等で適宜振り返り実践に繋がっています。	利用者がその人らしく、今までの生活を地域の中で継続できるようサポートし、家族への支援も視野に入れた事業所理念を作成している。職員会で理念について話し合うことで意識づけし、理念を反映したケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設近隣に利用者と職員が散歩に出掛けています。こちらから挨拶し世間話をさせて頂いています。小さな事から良好な関係作りにも努めています。運営推進会議・入所判定会には民生委員に参加頂いています。	小、中学校の音楽会や運動会を見学に行くほか、近隣の方から季節の花をもらうこともある。また、月に2回、事業所近辺の清掃活動を行い地域の一員として交流している。今後は納涼祭など事業所の行事に地域の方の参加を呼びかけていく予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	火災訓練時に近隣の方達へ訓練の案内(非常ベルが鳴る・消防車が来る)を行い、グループホームの運営についてもさりげなく話させて頂きました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には必ず市の職員・地区の代表者・ご家族に参加してもらっています。‘あさくら’に合った会になるように努めています。	現在、1階の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で運営推進会議を開催している。会議では参加者からの意見、要望もあり双方向的な会議になるよう配慮しているが、議事録に意見交換の内容が記載されていない。自己評価は職員の意見も取り入れ作成している。	会議の意見交換の内容を議事録に記載し、今後のサービス向上に活かせるよう期待したい。また、評価で明らかになった課題についても会議で報告し、目標達成計画と共に、取り組みの経過報告を行うことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設して1年足らずのホームです。介護保険や運営について分からないことがあれば遠慮無く、市の窓口にご相談しています。	開設間もないため、折に触れ市の担当者に相談する機会があり、市との連携は取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年3回、法人の虐待・身体拘束廃止についての勉強会に参加しています。また施設内に虐待・身体拘束防止委員会を設置し月1回の会を開き、ケアの振り返りや事例を用いて勉強会を行っています。日中は玄関チャイム設置し、施錠をしないケアに取り組んでいる。	法人内研修へ参加し、事業所に「虐待・身体拘束防止委員会」を設置してケアを振り返っている。また、一人で外出したい利用者には、職員がさりげなく付き添って外出している。職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいるが、職員の異動等により身体拘束の禁止対象行為がまだ全職員にまで浸透できていない。	身体拘束をしないケアの基礎となる「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」への理解を、全職員に浸透させることを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様に法人の勉強会・委員会・ユニット会での振り返りを行っています。今後は外部研修に積極的に参加し視野を広げケアを行いたいです。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の人権を真に考え職員は利用者にとってトレーナーでは無いことを理解しケアを行っています。また、研修・勉強会に参加し学び・振り返りを行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容を説明させて頂き、利用者・ご家族に疑問点があれば質問に対してのブレない返答を行うよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・要望を受け付けたら職員全員に報告し改善策を検討し実践に繋げています。また、面会時に職員からご家族に気さくに話掛ける事で苦情・要望を言いやすい環境作りにも気を配っています。意見箱も設置しています。	今年3月より事業所だよりを発行しているほか、担当者が毎月個別のお便りで利用者の状況を家族に報告している。こうした情報を基に、今年4月に1回目の家族交流会を開催するなど家族の意見、要望を聞く機会を作っている。しかし、家族からの率直な意見等を聞くまでに至っていない。	家族はなかなか本音が言えないものであることを理解して、家族同士で話せる場の設定など家族の意見、要望が出やすい環境づくりを行い、家族の率直な思いが汲み取れることを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝・夕のミーティング・全体会で意見・提案を聞いています。日常の業務の間、会話の中から個別に意見を聞いています。	管理者は職員が日常的に業務に関する意見、要望を言いやすい雰囲気を作っており、ケアの改善意見などを運営に反映できている。また、職員の気づきや意見、要望などの内容により必要に応じて、月1回の管理者会で法人本部に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	有期雇用時には条件等、綿密に話し合い納得を頂き採用させて頂いています。新人研修後、評価表をもとに本人・主任・管理者と面談を行い不安解消に努めています。賞与前に人事考課を行い本人・主任・管理者と面談しモチベーションアップに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格試験の合格者には会場までの移動・試験に必要な費用を法人が負担するなどバックアップ体制が整っている。毎月、法人内でスキルアップ研修・事業所内での内部研修を毎月計画し必要な研修テーマで実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の西地区のグループホーム連絡会に参加し、情報・意見交換を行い自施設に反映している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供する前の面接時に利用者・ご家族からの要望を把握しプランに反映しケア実践に努めています。家族様に事ある毎に電話連絡させて頂き不安のない介護に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者・ご家族と誤解や思い違いが起きないように確認を取りながら気を配り面接を行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	職員の都合や思い違いが無いよう、話し合い、確認を取りながら面接を行っています。居宅ケアマネ等の意見も反映し、医療の必要な方には訪問看護との連携を強化している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	”私達は利用者と対等の立場であり一緒に生活させて頂いています”という意識と思いやりを持ってケアを行います。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にユニットへいつでも面会に来て頂ける雰囲気・環境作りに努めています。精神面などいつもと違い、対応に困ったらご家族に連絡を取り解決に向けての話し合いをもっていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の出身地へドライブしたり、当施設に入居する前まで暮らしていた家周辺へ出掛けたりと気分転換や現在の様子を見てもらう事で落ち着いて頂くよう支援しています。	利用者のふるさと訪問や自宅近辺へのドライブのほか、近所に知り合いの方がいる利用者については、職員と一緒に時々声かけをして談笑するなど、馴染みの人や場との関係継続の支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良いグループが出来ています。(2~3名)たまに、陰口を言っている事もあるようですが、職員が無理に話を中止するのではなく、集団レクリエーション(合唱・ビーチバレーなど)を行い楽しみを共有することで関係修復に繋がっています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退所した時には、次の施設等へ情報提供・相談に応じ、利用者が困らない支援を行っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしさとは？どんな生活を望んでいる？を職員で話し合いをもって、一人一人対応方針を決めてケアの実践を行います。	アセスメントシートによる記録のほか、家族や本人との会話をもとに思いや意向の把握に努めている。不穏のある利用者が、居室へのテレビの設置で自室と認識ができて不穏が解消した事例がある。利用者の状態変化時には原因を考え、意思疎通が困難な場合は仕草や表情で思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接・契約時に聞き忘れた事や実際に生活を始めてから疑問に思っていることをご家族に質問したり施設に問い合わせています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の利用者との関わりで歩行状態や立位状態を観察しながらケアを行っています。本人の体調や思いに合わせた生活を行っててもらっています。例として朝”まだ眠い”との訴えがあれば8時ごろまでゆっくりしてもらっています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の質の向上を目標と掲げ、実現の為に何が必要か考えケアを行い職員会・担当者会議等で意見を検討しプランに反映しています。	介護計画は計画作成担当者が担当職員や家族から意見要望を聞き、3カ月ごとの見直しを行うほか、状態変化時は随時見直しを行っている。介護計画は実践可能な利用者個々の状態に即した計画になっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録はまだまだ十分とは言えませんが、具体的かつ客観的に記録を残すようにしています。会議録や申し送りノートを活用して情報の共有に努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われていないとは言えませんが、体調不良時にご家族が搬送困難な時に受診へ付き添いを行ったり、介護保険の更新手続き等、代行可能な事柄を行います。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小中学校の音楽会・運動会を見学したり、季節毎に桜・あじさいの鑑賞に地区の名所へ出掛けています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・ご家族の希望に沿うようにしています。また、同一法人の診療所の説明を行い、同意を頂いた上で利用してくれています。	受診は本人、家族の希望する医療機関を利用できている。受診は基本的に家族対応だが、希望に応じて職員も同行している。受診結果に関する情報はケース記録に保管し、家族や職員間で情報を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護シートに利用者個別の情報を記入し疑問や対応について訪問看護師と連携を的確に行い、アドバイスを頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された利用者に対し、定期的に面会に出向いたりドクター・ナースと連携を図り、ご家族の意見を把握できるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在当施設で看取りを実施した事はありませんが、H25・8・1に施設の隣に診療所が開設予定であり、看取りの体制が整備強化されれば、ご家族・本人の希望に沿う事が出来ると思います。	看取りの指針を作成しており、入居時に家族に説明している。今後利用者の状況に応じて、家族や医療機関と話し合いながら支援していく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し対応に努めています。応急処置には慣れ・経験が必要であり研修を参加しスキルアップを行います。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成し有事に活用します。地域との協力体制作りは、施設のイベントに参加して頂くなど、あせらずゆっくりと構築していきます。	同一建物内の事業所と共同で防火訓練を実施しているが、開設後間もないこともあり、地域の方の参加協力を得るには至っていない。備品、非常食などについては、建物内の他事業所と共同で準備している。	火災訓練時は、非常ベルや消防車が来ることを近隣に連絡していることもあり、近隣の他施設の協力や地域の方と一緒に消火方法を習うなど、参加の呼びかけを工夫して地域連携ができることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は私達よりも目上の存在であり、敬語で会話させて頂くことが礼儀であると意識して、関わりを持たせて頂いています。	新任研修時に、プライバシーの確保と尊厳を損なわない対応をするよう指導している。職員は利用者の尊厳を守ることに徹し、利用者の人格を損ねるような声かけは行っていない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを心掛け職員が明るく笑顔で関わりを持たせて頂くことで、思いやNOを言いやすい環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間・入浴時間など生活のタイムテーブルは職員が決めているが、意思決定は出来る限り本人に任せています。(4・5日入浴していない利用者には入って頂くよう声掛けを行います)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	鏡を見てもらい髪を自分で梳いてもらったり、職員が介助させて頂いています。返答や表情から満足度を確かめています。本人と一緒に衣類・靴等買い物支援、月1回訪問理美容が来てくれます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理作業がやりがいと感じて頂けるよう、盛り付け・調理補助・食器洗い、それぞれ役割分担を実施しています。	食材は業者から購入し、利用者が食べやすいよう調理を工夫して提供している。訪問歯科を利用して口腔ケアに努めた結果、流動食から固形食に改善した利用者もあり、食べる事を大切に支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は利用者と一緒にいき、特に嚥下・咀嚼について観察させて頂いています。必要があれば随時食事形態を変更しています。摂取量不足の方には高カロリー食品での補助を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施しています。口腔状態が悪い利用者へ歯科往診サービスを活用させて頂きます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ外しについて 本人の年齢や心身状態に合わせて慎重に行います。(失敗した時の本人の気持ちを考えると…)ゆずでは日中のオムツ外しの成功者が2名います。	排泄が自立している利用者は、ユニット毎に5名いる。排泄チェック表をもとに、時間をみてさりげなく誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、便秘予防の為、ヨーグルト・バナナを提供しています。また、安易に服薬に頼らないよう、水分補給や運動で排便に繋げたいが、場合によっては医療従事者に相談します。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には午前入浴ですが、拒否やタイミングが合わなかった時に、午後入って頂ける体制にしています。	基本的に午前に入浴時間を設定しているが、入浴を拒否する利用者には、時間をずらしての声掛けや清拭での対応など、チームワークによる柔軟な入浴支援に努めている。利用者は少なくとも週2回は入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は夕食後本人の意向に任せています。眠くなるまでホールで会話をしたりテレビを見て過ごして頂いています。中途覚醒されたらホールで寛いでもらったり、水分を勧めたりとすぐに再入床を促しません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を活用しています。服薬を行ったかだけの表では無く、薬の効用・量などを要約した内容になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	女性利用者が多く、生活リハビリ(家事)の実施がよく出来ています。本人の意向を反映する事が課題です。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	「ホームは退屈」と外へ出掛ける利用者につき添い近隣へ散歩を行い気分転換を図って頂いている。職員配置が多い時には出身地へ出掛ける事もあります。	ふるさと訪問、季節の花見、外食などの外出のほか、日常的に近隣への散歩や買い物に出かけている。また、庭が広いので車いす、シルバーカー利用者も外気浴を兼ねて庭を散策している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能な方は任せています。他の利用者は施設の金庫にて管理しています。使用の希望がある時には職員が付き添い買い物支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からご家族に連絡を取りたいと訴えがある時には施設の電話を利用してもらっています。* 帰宅願望の訴え時は職員対応にて気分転換を図り落ち着いて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が大きく光を取り込むよう設計されています。花を職員が定期的に活け替えてくれておりホールはいつも明るくと意識しています。	テーブルにはトルコキキョウ、カサブランカなど季節の花が活けられ、壁面にも折り紙で作った花が飾られ季節毎に貼り替えている。また、廊下の壁面に紙の大きな木を貼り、利用者が葉を作って飾れるようにし、どんな木になるか利用者が楽しめる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の真ん中にソファを2つ設置しています。自然に利用者4~5名集まり、昔話や日常会話が弾んでいます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具など、なじみのある品を居室に持ってきてくれています。配置は本人・ご家族、場合によっては職員もレイアウトに参加させて頂いています。	居室には使い慣れた筆筒、机、椅子、家族の写真、猫のぬいぐるみ、日本人形など、それぞれの利用者に応じて居心地のよい居室づくりが行われている。また、入り口には名札に添えて職員手作りの切り絵があり、利用者に分かりやすく親しみを与える工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・廊下・浴室・トイレなどの共用部に手摺を設置しています。居室前に個別にわかりやすい名札を設置しています、本人様も表札を見て「私の家やね」と喜んでくれます。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
		○	3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが			○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1. ほぼ全ての利用者が				
		○	2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名: ゆず

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設前に職員全員で基本理念を立案しました。職員会等で適宜振り返り実践に繋げています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設近隣に利用者と職員が散歩に出掛けています。こちらから挨拶し世間話をさせてもらっています。小さな事から良好な関係作りに努めています。運営推進会議・入所判定会には民生委員に参加頂いています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	火災訓練時に近隣の方達へ訓練の案内(非常ベルが鳴る・消防車が来る)を行い、グループホームの運営についてもさりげなく話させて頂きました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議には必ず市の職員・地区の代表者・ご家族に参加してもらっています。‘あさくら’に合った会になるように努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設して1年足らずのホームです。介護保険や運営について分からないことがあれば遠慮無く、市の窓口にご相談しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年3回、法人の虐待・身体拘束廃止についての勉強会に参加しています。また施設内に虐待・身体拘束防止委員会を設置し月1回の会を開き、ケアの振り返りや事例を用いて勉強会を行っています。日中は玄関チャイム設置し、施錠をしないケアに取り組んでいる。		

7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束と同様に法人の勉強会・委員会・ユニット会での振り返りを行っています。今後は外部研修に積極的に参加し視野を広げケアを行いたいです。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>利用者の人権を真に考え職員は利用者にとってトレーナーでは無いことを理解しケアを行っています。また、研修・勉強会に参加し学び・振り返りを行っています。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の内容を説明させて頂き、利用者・ご家族に疑問点があれば質問に対してのブレない返答を行うよう努めています。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情・要望を受け付けたら職員全員に報告し改善策を検討し実践に繋げています。また、面会時に職員からご家族に気さくに話掛ける事で苦情・要望を言いやすい環境作りにも気を配っています。意見箱も設置しています。</p>		
11	(7)	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎朝・夕のミーティング・全体会で意見・提案を聞いています。日常の業務の間、会話の中から個別に意見を聞いています。</p>		
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>有期雇用時には条件等、綿密に話し合い納得を頂き採用させて頂いています。新人研修後、評価表をもとに本人・主任・管理者と面談を行い不安解消に努めています。賞与前に人事考課を行い本人・主任・管理者と面談しモチベーションアップに努めています。</p>		

13	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>資格試験の合格者には会場までの移動・試験に必要な費用を法人が負担するなどバックアップ体制が整っている。毎月、法人内でスキルアップ研修・事業所内での内部研修を毎月計画し必要な研修テーマで実施している。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域包括支援センター主催の西地区のグループホーム連絡会に参加し、情報・意見交換を行い自施設に反映している。</p>		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>サービス提供する前の面接時に利用者・ご家族からの要望を把握しプランに反映しケア実践に努めています。家族様に事ある毎に電話連絡させて頂き不安のない介護に努めています。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用者・ご家族と誤解や思い違いが起きないように確認を取りながら気を配り面接を行っています。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>職員の都合や思い違いが無いよう、話し合い、確認を取りながら面接を行っています。居宅ケアマネ等の意見も反映し、医療の必要な方には訪問看護との連携を強化している。</p>		
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>”私達は利用者と対等の立場であり一緒に生活させて頂いています”という意識と思いやりを持ってケアを行います。</p>		

19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族にユニットへいつでも面会に来て頂ける雰囲気・環境作りに努めています。精神面などいつもと違い、対応に困ったらご家族に連絡を取り解決に向けての話し合いをもっています。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者の出身地へドライブしたり、当施設に入居する前まで暮らしていた家周辺へ出掛けたりと気分転換や現在の様子を見てもらう事で落ち着いて頂くよう支援しています。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>仲の良いグループが出来ています。(2~3名)たまに、陰口を言っている事もあるようですが、職員が無理に話を中止するのではなく、集団レクリエーション(合唱・ビーチバレーなど)を行い楽しみを共有することで関係修復に繋げています。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>長期入院等で退所した時には、次の施設等へ情報提供・相談に応じ、利用者が困らない支援を行っています。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>その人らしさとは？どんな生活を望んでいる？を職員で話し合いをもって、一人一人対応方針を決めてケアの実践を行います。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>初回面接・契約時に聞き忘れた事や実際に生活を始めてから疑問に思っていることをご家族に質問したり施設に問い合わせています。</p>		

25		<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>日々の利用者との関わりで歩行状態や立位状態を観察しながらケアを行っています。本人の体調や思いに合わせた生活を行ってもらっています。例として朝”まだ眠い”との訴えがあれば8時ごろまでゆっくりとしてもらっています。</p>		
26	(10)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>生活の質の向上を目標と掲げ、実現の為に何が必要か考えケアを行い職員会・担当者会議等で意見を検討しプランに反映しています。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケア記録はまだまだ十分とは言えませんが、具体的かつ客観的に記録を残すようにしています。会議録や申し送りノートを活用して情報の共有に努めています。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>既存のサービスに捉われていないとは言えませんが、体調不良時にご家族が搬送困難な時に受診へ付き添いを行ったり、介護保険の更新手続き等、代行可能な事柄を行います。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>小中学校の音楽会・運動会を見学したり、季節毎に桜・あじさいの鑑賞に地区の名所へ出掛けています。</p>		
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・ご家族の希望に沿うようにしています。また、同一法人の診療所の説明を行い、同意を頂いた上で利用してくれています。</p>		

31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護シートに利用者個別の情報を記入し疑問や対応について訪問看護師と連携を的確に行い、アドバイスを頂いています。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院された利用者に対し、定期的に面会に出向いたりドクター・ナースと連携を図り、ご家族の意見を把握できるようにしています。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>現在当施設で看取りを実施した事はありませんが、H25・8・1に施設の隣に診療所が開設予定であり、看取りの体制が整備強化されれば、ご家族・本人の希望に沿う事が出来ると思います。</p>			
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時マニュアルを作成し対応に努めています。応急処置には慣れ・経験が必要であり研修を参加しスキルアップを行います。</p>			
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>緊急連絡網を作成し有事に活用します。地域との協力体制作りは、施設のイベントに参加して頂くなど、あせらずゆっくりと構築していきます。</p>			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>利用者は私達よりも目上の存在であり、敬語で会話させて頂くことが礼儀であると意識して、関わりを持たせて頂いています。</p>			

37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日々のコミュニケーションを心掛け職員が明るく笑顔で関わりを持たせて頂くことで、思いやNOを言いやすい環境作りに努めています。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>食事時間・入浴時間など生活のタイムテーブルは職員が決めているが、意思決定は出来る限り本人に任せています。(4・5日入浴していない利用者には入って頂くよう声掛けを行います)</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>鏡を見てもらい髪を自分で梳いてもらったり、職員が介助させて頂いています。返答や表情から満足度を確かめています。本人と一緒に衣類・靴等買い物支援、月1回訪問理美容が来てくれます。</p>		
40	(15)	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>調理作業がやりがいと感じて頂けるよう、盛り付け・調理補助・食器洗い、それぞれ役割分担を実施しています。</p>		
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事は利用者と一緒にいき、特に嚥下・咀嚼について観察させて頂いています。必要があれば随時食事形態を変更しています。摂取量不足の方には高カロリー食品での補助を行っています。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを実施しています。口腔状態が悪い利用者へ歯科往診サービスを活用させて頂きます。</p>		
43	(16)	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>オムツ外しについて 本人の年齢や心身状態に合わせて慎重に行います。(失敗した時の本人の気持ちを考えると…)ゆずでは日中のオムツ外しの成功者が2名います。</p>		

44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>毎朝、便秘予防の為、ヨーグルト・バナナを提供しています。また、安易に服薬に頼らないよう、水分補給や運動で排便に繋げたいが、場合によっては医療従事者に相談します。</p>		
45	(17)	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている</p>	<p>基本的には午前入浴ですが、拒否やタイミングが合わなかった時に、午後入って頂ける体制にしています。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>帰室は夕食後本人の意向に任せています。眠くなるまでホールで会話をしたりテレビを見て過ごして頂いています。中途覚醒されたらホールで寛いでもらったり、水分を勧めたりとすぐに再入床を促しません。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬チェック表を活用しています。服薬を行ったかだけの表ではなく、薬の効用・量などを要約した内容になっています。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>女性利用者が多く、生活リハビリ(家事)の実施がよく出来ています。本人の意向を反映する事が課題です。</p>		
49	(18)	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>「ホームは退屈」と外へ出掛ける利用者につき添い近隣へ散歩を行い気分転換を図って頂いている。職員配置が多い時には出身地へ出掛ける事もあります。</p>		

50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理可能な方は任せています。他の利用者は施設の金庫にて管理しています。使用の希望がある時には職員が付き添い買い物支援を行っています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者からご家族に連絡を取りたいと訴えがある時には施設の電話を利用してもらっています。* 帰宅願望の訴え時は職員対応にて気分転換を図り落ち着いて頂いています。</p>		
52	(19)	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>窓が大きく光を取り込むよう設計されています。花を職員が定期的に活け替えてくれておりホールはいつも明るくと意識しています。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下の真ん中にソファを2つ設置しています。自然に利用者4~5名集まり、昔話や日常会話が弾んでいます。</p>		
54	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家具など、なじみのある品を居室に持ってきてくれています。配置は本人・ご家族、場合によっては職員もレイアウトに参加させて頂いています。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホール・廊下・浴室・トイレなどの共用部に手摺を設置しています。居室前に個別にわかりやすい名札を設置しています、本人様も表札を見て「私の家やね」と喜んでくれます。</p>		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				